



大和会だより

大和会の理念 「生命の尊厳と人間愛」

基本方針

1. 私たちは、利用者さまの権利を尊重し、誇りと責任を持って「利用される方がたのために」を心がけます。
2. 私たちは、急性期医療から在宅介護まで一貫して、常に温かく、質の高いサービスをめざします。
3. 私たちは、保健・医療・福祉水準の向上のため、専門知識の修得や技術の研鑽につとめます。

患者さまの権利と責任

1. 公正な医療を受けることができます
2. プライバシーが尊重されます
3. 医師による説明を受け医療行為を選択することができます
4. 医療の内容を知ることができます
5. 病院の提供するサービスに意見を述べるすることができます
6. 病院の規則を守り医療に参加し協力する責任があります

No. 39

2005（平成17）年
5月31日発行

6月1日 武蔵村山病院がオープン



「生命の尊厳と人間愛」を理念に



武蔵村山病院長
古瀬 信

21世紀は地方・地域の時代と呼ばれています。急性期医療から在宅介護までを基本方針とする大和会の夢と希望を託し、古い武蔵野の自然を残す武蔵村山市の開発途上にある一隅に、電子カルテや最新の医療機器

を備えた武蔵村山病院が6月1日にオープンすることになりました。

私個人は昭和30年代のはじめ頃、中央線から西武線を2回乗り継ぎ、狭山湖や多摩湖に遊びに来た思い出がありますが、武蔵村山市の記憶はまったくありませんでした。

武蔵村山病院に勤務することが決まった後、建設中の病院を見るため武蔵村山の地を訪ねましたが、大きな空と緑豊かな狭山丘陵を背景に広大な平地に立つ建物の雄大さに、長いこと忘れてしまっていた感激と心躍るものを感じました。

開院を前にして医療スタッフはまだ十分とは言えず、充実にはもう少し時間がかかりますが、

切望されている小児科や産科も開くことができました。眼科と耳鼻科が東大和病院から移設されて来ますので、従来の定義では総合病院になります。幸い、充実度の高い東大和病院とは距離的にも近く、必要な時には応援をいただきながら充実を図り、武蔵村山病院の特徴も出して行くつもりです。

高齢化社会を考えて、武蔵村山では特にリハビリテーション施設の充実が図られており、脳血管障害で倒れた患者さまの回復にも力を入れています。運動や作業療法に加え、嚥下機能保持にも高い関心が払われ、嚥下性肺炎予防のために口腔内の衛生や歯科治療が行えるよう歯科も併設しております。

最新のMRIやCTのほか、がんの診断に威力を発揮するPET装置などの最高の医療機器も備えており、高い診療レベルの維持に役に立つでしょうし、他医療機関との連携も深めることが出来るものと考えております。1年後には放射線治療装置も稼働し、がん治療が行えるようになります。

そのほか、透析センターがあり、地域の福祉や介護の充実のために訪問看護ステーションや居宅介護支援事業所などを併設しております。

しかし、公共交通機関などに恵まれない地域に病院が位置していることも確かで、何かと不安もあります。日夜、開院に向けて準備に忙しい職員には新鮮さと熱気が感じられ、将来の病院の発展を約束しているようで、私にも自然にエネルギーが湧いてきます。

私共は医療を通して、武蔵村山の“まち造り”に貢献することを目標にしておりますので、市民の皆さまも温かい目で見守って頂きたいと思っております。

武蔵村山病院竣工・祝賀会が開かれる

平成17年5月21日（土）、武蔵村山病院の竣工・祝賀会が行われました。病院の開設にご尽力いただいた総勢449名の方々が午前は院内見学を、午後は祝賀会へ参加されました。武蔵村山

市民が長い間待望した病院が実現できた喜びに、場内の熱気は高まるばかりでした。



内覧会来場者1000人超える

翌22日（日）は地域の市民の方々を対象に病院内を自由に見学できる閲覧会を行いました。10時から4時までの特に人気の高かったPETセンターでは、がんの早期発見に役立つPET/CTに高い関心が集まりました。



内覧者の総数は予想をはるかに超え1165人となり、自転車に乗った家族連れも多く見られました。地域の皆さまの期待の大きさに驚きつつ、職員一同気持ち新たに6月1日の開院を迎えます。



新任医師のご紹介

- ① 現在の職業を志望した理由やきっかけは何ですか？
- ② 出身地はどちらですか。また自慢できる食べ物や名所は？
- ③ 趣味や現在興味を持っているものなど教えてください。
- ④ 専門分野を教えてください。



<p>さとう こうし 佐藤 光史 (東大和病院 常務理事・消化器科・外科)</p>  <ol style="list-style-type: none"> ① プロフェッショナルである。健康であれば年齢に関係なく続けられる。父が医師であった。 ② 東京都八王子市：高尾山、とろろそば ③ 学生時代は医学部ボート部 (全日本レガッタ) ジョギング (35年) スキューバダイビング (35年) スキー (45年) 山登り (45年) ④ 外科学 消化器外科 (特に肝胆膵領域) 移植 (特に肝臓移植 かつては腎臓移植をやっておりました。) 	
<p>ふるせ まこと 古瀬 信 (武蔵村山病院 院長・放射線科)</p>  <ol style="list-style-type: none"> ① 子供の頃から、医療環境の乏しく恵まれない地域に育った事から、なんとなく。 ② 北海道：名所は記憶しておりませんが、美しい自然がいっぱいあります。すし、魚類、野菜 (たまねぎ、じゃがいも、アスパラ) ③ 特にありませんが、テニスをするのが好きです。60の手習いのためか、さっぱり上達しません。週2回、夜にやっておりました。30年前のポップス・フォークなどが好きです。 ④ 画像診断 (X線、核医学) どの領域でもやってきましたが、中でも胸部、脳神経、頭頸部や小児領域を多くやってきました。婦人科領域はあまり得意ではありません。日頃の性格が出ているかと思えます。 	
<p>えんどう ただお 遠藤 忠雄 (武蔵村山病院 名誉院長・泌尿器科)</p>  <ol style="list-style-type: none"> ① 父が医師であった事が、大きな factor になっている。 ② 東京都港区白金台：自然教育園、泉岳寺 (四十七士の墓所) ③ ゴルフ、テニス ④ 泌尿器科：一般泌尿器科、腎移植、小児泌尿器科 	<p>たかはし つよし 高橋 毅 (武蔵村山病院 副院長・消化器科)</p>  <ol style="list-style-type: none"> ① 本来は船乗り (航海士) 志望だったが、視力が悪く受験出来なかった。 ② 秋田県：ぶな林、日本酒、きりたんぼ ③ 園芸、囲碁。北大ヨット部では470級に乗っていた。 ④ 外科一般、消化器外科 (特に肝胆膵脾/後腹膜臓器の外科)
<p>ほりぐち やすのり 堀口 泰典 (武蔵村山病院 副院長・小児科)</p>  <ol style="list-style-type: none"> ① 兄妹の病 ② 和歌山県：梅干し、なれ寿司、金山寺みそ、果物、和歌之浦、高野山、熊野三山、白浜温泉、勝浦温泉 ③ 草野球 ④ 小児科：特に小児循環器領域 画像診断、カテーテルインターベンション 	<p>はらさわ ありみ 原澤 有美 (武蔵村山病院 PETセンター長・放射線科)</p>  <ol style="list-style-type: none"> ① 放射線科医、画像診断医という職業のかたちに新鮮さを感じたから。 ② 群馬県 ③ クラシック音楽、西洋美術史 ④ 放射線科 (画像診断科) 画像診断一般、骨軟部画像診断

<p>たかね ひろし 高根 裕史 (武蔵村山病院 医師・腎臓内科)</p>  <ol style="list-style-type: none"> ① 特に大きなきっかけはありませんでしたが、高校の時に決めました。分野に関しては、医局の求人を選びました。 ② 千葉県旭市出身。九十九里浜に面しており、海と新鮮な魚があり、気候的にも暮らしやすいです。 ③ 以前は釣りをよくやりましたが働き始めてからはほとんどできません。再開できるのを楽しみにしています。 ④ 内科、腎臓内科、透析が専門です。 	<p>まつもと かつべい 松本 克平 (東大和病院 医師・麻酔科)</p>  <ol style="list-style-type: none"> ① 何だったんだろう。 ② 東京都 ③ 音楽、著作・前向きな翼 (探図社) (麻薬にちょっと詳しくなれる)・麻酔じかけのインフォームドコンセント (鳥影社) など ④ 心臓麻酔・肺麻酔・全身管理全般
<p>しみず けんいち 清水 賢一 (東大和病院 医師・麻酔科)</p>  <ol style="list-style-type: none"> ① 世の中の流れに流されました。 ② 長野県：車で30分走るとスキー場だらけです。 ③ 2人の子供と休日に遊ぶのが楽しみです。 ④ 手術麻酔 	<p>すずき てつたろう 鈴木 哲太郎 (東大和病院 医師・消化器科・外科)</p>  <ol style="list-style-type: none"> ① あまりはっきりと覚えていませんが、祖父が開業医だったのが影響していると思います。 ② 神奈川県横浜市：シュウマイ、港 ③ 子供の成長 ④ 一般外科、消化器外科
<p>はりがえ しんや 張替 慎也 (東大和病院 医師・呼吸器科)</p>  <ol style="list-style-type: none"> ① もともと医学に興味がありましたが、自分の将来の職業を模索中に柳田邦夫の「ガン回廊の朝」を読み医師という職業に強く惹かれました。 ② 埼玉県：東京のベッドタウンです。 ③ 子育て中で、趣味を楽しむ時間も余裕ありません。時間ができたら以前やっていたスキューバダイビングを再開したいと思っています。 ④ 呼吸器内科学全般です。特にアレルギー性疾患 (アトピー性皮膚炎等多分野も含む) に興味を持っています。 	<p>もとし やすとも 元橋 靖友 (武蔵村山病院 医師・歯科)</p>  <ol style="list-style-type: none"> ① 歯科に関する病気で入院した事がきっかけとなった。 ② 千葉県：東京ディズニーランド ③ ... ④ 一般歯科：摂食嚥下リハビリテーション、専門的口腔ケア

栄養一口メモ

旬の食材：いちご・バナナ

いちごの効能：「いちご」は柑橘類と違って皮がないので含有するビタミンCがすべてとれ、5~6粒食べるだけで一日分が供給できます。ビタミンCはストレスで消費される成分なので、ストレスによるイライラや肌あれに効果があります。またアントシアニンといういちごに含まれる色素にはフリーラジカルの害を防いで発がんを抑制する作用があり、注目されています。



食べ方：アントシアニンの効果は食後4時間からあらわれ、24時間で消失します。毎日ジャムなどで少しずつ食べて効果を継続させるとよいでしょう。

バナナの効能：「バナナ」には即効性のエネルギー源となるブドウ糖や果糖のほか、消化吸収時間の異なる糖質が豊富なので継続的に筋肉にグリコーゲンが蓄えられ、スタミナを持続させます。また、「バナナ」に豊富に含まれるカリウムには筋肉の緊張をほぐす働きやナトリウムを排泄し血圧を下げる働きがあります。



食べ方：グリコーゲンは、クエン酸の働きでより効率よく筋肉に蓄えることができます。スポーツ時などにはオレンジジュースと一緒に食べるとよいでしょう。

(栄養科 管理栄養士 宮野 励子)



18

うちの 内野医院

うちの ひではる
内野 秀治先生

(内科・循環器科・小児科)

—東大和市—



東大和病院前の青梅街道を西北に3 kmほど行くと狭山緑地を背景に蔵敷地域がある。内野医院は白い外壁の建物で敷地内に広い駐車場を備え、入り口には大きなイチョウと桜の木が生えており、玄関前は素敵な花壇に囲まれている。

内野先生は、昭和54年に東京医科大学を卒業、そのまま大学で主に循環器内科を担当。開業前に公立昭和病院小児科での研修を済ませ、平成2年9月、生れ育った現在地で開業された。先生の小さかった頃は、お父様はこの地で歯科を開いておられ、おじい様は医業と併せて大和の村長・町長を務めておられた。おじい様は急患と言えば昼夜を問わずよく往診に出ていることが今でも強く印象に残っているという。このような環境から先生は小さい頃から自然に医者道に進まれることを考えていた。内野家は400年以上に渡りこの地で名主などを務められた旧家なのである。医院の前には「史蹟、蔵敷高札場」の記念碑があり、これはおじい様が建立されたものである。

先生は、温厚でいつもやさしい眼差しを絶やさない。“具合が悪い、症状がある”という事は、体のどこかで異常が発生している。“原因があり結果がある”という事を忘れないで、患者さまの訴えをよく聴き、よく診る（診察）ことが先生の信条だ。

先生の趣味はゴルフ。腕前の方は聞き忘れてしまったが、お父さまに連れられて中学卒業以来続けているとのことである。患者さまをいやし、楽しんでもらおうと診察室前の庭の手入れを考えたがなかなか出来ないと苦笑された。

現在先生は東大和市で介護認定審査委員会の会長を務められている。少子高齢化の時代を迎え、先生にはこの地で小児医療と高齢者の医療・介護を守るために、ますますのご活躍が期待される。



東大和市蔵敷

1-429

TEL 042-561-3009



ちょっとメディカル 臨床検査の話④

—「アレルギーのおはなし」—

今回はアレルギーについてお話したいと思います。アレルギーを解りやすくするために、まず免疫のことを少しだけお話します。免疫を一言で言うと、生まれながらに備わった『身体の防御機構』のことを指しています。つまり、私たちは生きていく間に、異物が体内に入ったり、病原体、細菌あるいはウィルスが感染したりと、生体へ様々なストレスを受けています。このストレスを排除し、生体を守る機能を免疫（あるいは免疫応答）といいます。例えば、病原体による感染の場合、免疫反応が適切に行われれば感染を軽くすませることが出来ますが、適切に行われずと病原体が深く体内に入り込み重篤な感染症を発病してしまいます。では、アレルギーと免疫の関係は何なのでしょう？簡単にいえば、免疫応答が過剰に起こり、逆に身体を傷つけてしまうことをアレルギー（反応）と呼んでいます。

アレルギーといっても細かく分類すると5型（I～V型）に分類されます。普段良く耳にするのは食物アレルギー、動物（イヌ、ネコ）アレルギー、そして植物アレルギーなどで、それらはI型（即時型反応）に分類されます。これ以外の型の説明はまたの機会にして、代表的な植物アレルギーのひとつである「花粉症」についてお話します。私自身花粉症持ちなのですが、高校生の頃突然発症してしまいました。それまで花粉症とは無縁でしたから、何故多くの人が皆マスクをしたり

涙目になっているのかわからず、ニュースや新聞で花粉の散布情報が流れるのがずっと不思議でした。実際花粉症になってみるとこんなに辛い事は無く、毎年その時期になると憂鬱になります。私はスギ花粉症だけなので、春先だけにこのような症状が表れるのですが、時期によってはヒノキ、カモガヤ、ブタクサなどそれぞれの季節ごとに飛ぶ花粉もあり、それらに対して順番にアレルギー反応を起こす方もいらっしゃるようです。

そもそも花粉が鼻や目に入って何故くしゃみ、鼻水さらには涙目などを生じるのでしょうか？まず、花粉が体内でIgEと呼ばれる免疫グロブリン蛋白と結合して異常反応を起こすことが原因です。検査科では血清のIgEの定量検査を行っていますので、IgEの量が多いほどアレルギーを起こしやすい体質であることがわかります。また、皮膚科や耳鼻咽喉科では食べ物、動植物、ホコリに対してどのくらい身体が反応するかを血清で調べることにより、アレルギーの原因物質を知ることが出来ます。春先になり何らかの症状が出てくるようでしたら、是非とも関係各科の医師までご相談ください。最近では、眠たくならない使いやすい抗アレルギー薬が出て来ましたので、苦しむより、受診して早く手を打つことです。



(検査科 富澤、石田)

編集後記

いまは変化の時代だ、転換期だとよく言われます。しかし、考えてみれば、時代はいつも変化の連続でした。社会構造の改革が必要だとは毎日、耳にする言葉です。行政改革や教育改革が叫ばれ、医療界でも未曾有の少子高齢社会の到来で、経済成長とともに導入された社会保険制度の見直し議論が起っています。厚生労働省の『今世紀の医療と将来像』には、あるべき方向のひとつとして「患者さまの選択と情報提供」があげられています。これは患者さまが医療機関と治療方法を選択されること、医療従事者はそのための診療情報開示、納得のいく医療を推進するという事です。つまり、他業界のように医療界においても、患者さまの視点からの医療サービスの質が、いままでも以上に問われることとなります。人は変化を嫌う動物だと、しばしば言われます。しかし、柔軟な対応が遅れたために崩壊への道を歩んだ組織や社会の存在は、歴史が教えてくれています。生き残るための知恵を、利用者さまの身になって、皆で考えていきましょう。(広報)

編集・発行 特定医療法人財団大和会 (院外広報誌 隔月発行)

〒207-0014 東京都東大和市南街1-13-12 TEL 042-562-1411 FAX 042-562-1399

ホームページ <http://www.yamatokai.or.jp>